

聞いて
みよう

居場所に通う

子どもたちの

声

／おかえり／

子ども
第三の
居場所



子ども第三の居場所とは

家庭の抱える困難が多様・複雑化し、地域のつながりも希薄になる中で、子どもが安心して過ごせる居場所がなく、時として孤立してしまうケースも少なくありません。日本財団は、学校から家に帰るまでの放課後の時間に、子どもたちに安心できる居場所を提供し、バランスのとれた食事の提供や生活習慣の定着支援、学習支援、体験機会を提供する「子ども第三の居場所」づくりを日本各地で進めています。

日本財団が支援する全国約250カ所の居場所からは、「笑っていなかった子が笑えるようになった」「自分のやりたいことを言うようになった」「学校に行くようになった」等の利用する子どもの変化がみえてきました。子どもはどのような居場所を求めているのでしょうか。子どもが「居たい・行きたい」と思っている場所、居場所のスタッフにどんな関わり方をしてほしいか、どのように過ごしたいのか、5つの居場所での事例を子どもの視点で紹介するとともに居場所づくりの工夫や成果をまとめました。

居場所づくりに取り組む方々のヒントになれば幸いです。

もくじ

子どもたちの声	P3
居場所スタッフから届いた子どもの変化	P13
子どもの声を聞くために	P17



5つの機会

「子ども第三の居場所」では、子どもたちの生き抜く力を育むため5つの機会を提供しています。



安心

子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、居心地のよい環境づくりに努めています。「ここに居ていいんだ」と思ってもらえるよう、まずは子どもたちのありのままを受け入れることから始めています。



食事

毎日栄養バランスを考慮した温かい食事を無料で提供しています。子どもたちの健康を支えるとともに、準備や片づけ等も子どもたちと行うことで、食の大切さ、みんなで食事することの楽しさを伝えています。



生活習慣

子どもの中には、基本的な生活習慣が身についていないケースもみられます。食事、着替え、入浴、歯磨き、挨拶等の基礎的な生活習慣を整えます。また、友達や大人との関わり方を学び、社会性を培っています。



学習

学習習慣が定着するよう、スタッフによる学習支援を行っています。わからないところまで遡った学習支援に加え、座ってられない等の課題がある子どもは情操面や発達障害の可能性も考慮して支援します。



体験

旅行、キャンプ、料理、音楽・プログラミング等の教室を通して、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーション等、「非認知能力」を育みます。

とある拠点での1日

14:00 宿題／ 個別学習	15:00 おやつ	16:00 外遊び or 体験活動	17:00 わくわく 読書タイム	18:00 夕食	19:00 自由時間	20:00 お迎え、 保護者とお話
毎日の宿題だけでなく、一人ひとりに合わせてニガテも無くします。		読書や読み聞かせに加えて、ゲーム形式でみんなで同じ本を読むなどの体験活動も行います。		バランスの良い夕食を毎日提供します。調理や片づけをお手伝いし、皆で食卓を囲みます。		



おなかいっぱい 食べられて、 友達もできた

こうせいさん（中学2年生）



生活保護受給世帯で、5人兄弟の4番目として生まれたこうせいさん。小学1年生から不登校になり、末っ子のお世話をがんばる毎日を送ってきました。行政からの紹介で居場所とつながり、学習や生活の支援を受けながら成長してきました。

初めて居場所に行った時の感想は？

お母さんと一緒にいったけど、どんなところだろうと不安でした。でも、子どもも大人もたくさん居て、楽しい場所だなと思いました。

居場所ではどんな風に過ごしていた？

ボードゲームをしたり公園で鬼ごっこをしたりして遊びました。一番ハマったのはブロックおもちゃ。居場所でやったのが初めてだったのですが、自分が考えたものを作れるのが面白くなって。乗ってみたい飛行機を想像しながら作って、みんなに見せていました。小3の時に、ブロックおもちゃの作品を載せた居場所のカレンダーを作ろうと盛り上がりました。他の子どもの作品と一緒に載せて、グッズとして売りました。友達に見せたら「すごいじゃん」って言ってくれて嬉しかったです。

昆虫も好きで、よく図鑑を読んでいた。スタッフとも虫の話がたくさんしていました。それでトカゲを飼ってみたいと思って、家で飼いました。水換えとか掃除とか大変だけど、可愛いです。もう5年くらい育てています。

印象に残っているスタッフはいる？

ゆみちゃん。嫌になって居場所を飛び出した時に、泣きながら追いかけてくれました。今振り返ってもなんで飛び出したのかはわからないけど、時々逃げていました。居場所から数分のところにある公園に行っていました。

居場所を利用して変わったことはある？

野菜を食べられるようになりました。もともと野菜は全部無理で、特にピーマンが苦くて大嫌いでした。でも、居場所でみんなが食べているのを見ているうちに、「食べてみようかな」と思いました。ちょっとずつチャレンジして、中学生になってようやくおいしいと思えるようになりました。今ではピーマンが好きな野菜No.1です。あの苦味がいいよね。

勉強の調子はどう？

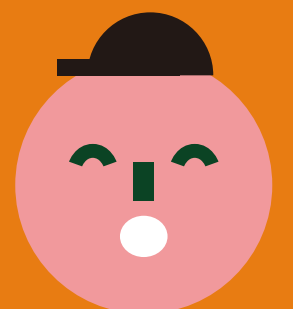
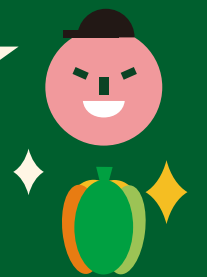
小学校低学年の頃は毎日30分、宿題をする時間がありました。勉強はしたくなかったけど、ちょっとずつやるようになったかな。学校では「やりたくない」と言えないけど、居場所なら「嫌だ」って言えました。勉強は好きじゃないけど、友達と休憩時間に喋るのが楽しくて、高学年になっても、同じところが運営する学習支援に通いました。今は数学が好きです。教えてもらううちに、問題が解けると楽しいって思うようになりました。

将来の目標は？

人生のほとんどを居場所で過ごしています。居場所がなかったら、ブロックおもちゃにも出会えなかったし、思い出もありませんでした。大学生スタッフも居て、旅行の話とか海外の話とか、自分が知らないことをたくさん教えてもらいました。居場所のスタッフの姿を見て、将来は、どんな子どもも見守れるような保育士になりたいと考えています。勉強をがんばって保育士になり、資格を活かして色々な場所で働きたいです。

わたしは、こんな居場所がいい！

- 誰でも来れるようにしてほしい
- 知っている人が居るのがいい。だから登録制が安心



他者の面白さに 気づいた、 異年齢交流

けんとさん（中学3年生）



小学2年生から利用するけんとさんは、友達とのコミュニケーションの取り方がわからず、学校でも一人でした。しかし、居場所で異年齢の子どもや大人との関わりを持ったことで、人間関係構築力が向上。学習支援を受けて成績も上向きになりました。中学では、卓球部の部長、体育祭の応援リーダー、副生徒会長を任せられ、学校のリーダーとして一目置かれる存在です。

居場所へ行こうと思ったきっかけは？

はじめはお母さんに連れられて行きました。学校にも馴染めず、小1の時は宿題を数回しか出せなくて、僕はできない子なんだと思っていました。



なぜ居場所の利用を続けたの？

ドミノ遊びがうまくできなかった時、スタッフがアドバイスをしながら手伝ってくれました。ここなら何かあっても僕のことを助けてくれるし、自分なりに考えながら物事を進められると感じました。



居場所で楽しかったことは？

他学年や大人との関わりです。スタッフに質問するとわかりやすく教えてくれました。また、大人が仕事をする姿を見るのも新鮮で、何をしているのかを自分で想像しながら楽しんでいました。



記憶に残っていることはある？

子どもレストランのイベントでクレープを作ってお客さんに提供しました。それから、家でも料理をするようになり、卵焼きやオムレツ、フレンチトーストを作って家族に食べてもらっています。母親の最高の笑顔を見たくて、毎回レシピを工夫しています。
あと、居場所で沖縄旅行へ行った際、朝礼の機会があり、初めて人前で喋りました。注目されることや人の前に立つ楽しさに気づきました。



居場所に通って感じる自分の変化は？

人に興味を持つようになりました。大人が自分のやったことに反応をくれたことで、他者がどんなことを考えたり、表情をしたりするのか気になるようになりましたね。人が好きになって、もっと相手のことを知りたいと思うようになり、積極的に話しかけるようになりました。



学習面で変化はある？

落ち着きがなかったので、利用を始めた頃は、集中するために倉庫でスタッフの方と取り組みました。もともと算数は好きではありませんでしたが、教えてもらううちに、面白いと思うようになりました。今では、数学が得意科目です。



なぜ勉強ができるようになったの？

勉強のやり方がわかるようになったことが大きいです。中1の時、英語は10点でした。スタッフから、英単語は繰り返し書いて、見ずに書けるようになるまで練習するといいて教えてもらい、点数が伸びました。中学になってからは、居場所に届いたテキストを使って漢字検定も受験しました。



将来の目標は？

医学の道に進みたいです。僕は多くの人に磨かれ、今のようになれることができるようになりました。引っぱってくださった方々のように、自分より下の世代の子どもたちの手助けをできる存在になりたいです。



わたしは、こんな居場所がいい！

- 困難な背景を抱える子どもと言われると、引け目を感じてしまう。そういった言葉を使わずに紹介してほしい



不登校だからって 気を遣われない ところがいい

あかりさん（高校1年生）



小学生から不登校のあかりさんは、居場所に週3日ペースで通っています。子どもからシニアまで様々な年代層が入り出る居場所を、「おばあちゃんの家みたい」と話すあかりさん。心地よく感じられたのは、なぜだったのでしょうか。

不登校になったのはなぜ？

小学校の先生が怖くて、毎日怒鳴るのが嫌でした。最初はがんばっていたのですが、長期休みの後から全く行けなくなりました。お姉ちゃんも学校へ行っていなかったんで、私ももういいやって。



居場所にきたきっかけは？

はじめは別の居場所を利用して、もっと自由に遊べる場所がないかなと思っていた時に、友達に連れてきてもらいました。学校で出会う大人は生真面目な人ばかりだけど、居場所に居る大人はユーモアがあって面白くて気に入りました。



居場所のどんなところが好き？

「不登校なんだよね」と話をしても、「へー」って終わるところ。「大丈夫？」「話を聞くよ」と気を遣われることがないのが楽です。過ごし方も自由だから、ボードゲーム、テレビゲーム、化粧、ネイルなどその時々で興味があるもので遊んでいます。



印象に残っている出来事はある？

高校受験かな。スタッフに作文添削に付き合ってもらいました。でも、中学2年生で開けたピアスの穴が見つかって、第一志望の高校を不合格になっちゃって。



その時、「いいやつなのになんで落とすんだ」と怒ってくれる人たちがいて嬉しかったです。そもそも「ピアスの穴が開いていることを理由に落とされるのは正しいの？」という話し合いもみんなできて、生きていく上で大事なことは何だろうと考える機会にもなりました。居場所の友達は私が落ち込んでいると思って、元気づけようとしてくれました。でも、直球ではなく、バレンタインのチョコを渡すのを口実に呼び出してきて、一緒に楽しく過ごしてくれたのが嬉しかったです。



小学生から高校生になるまで、居場所に来続けているのはなぜ？

単に楽しいから。スタッフや友達と喋りたくて来しています。親とも兄弟とも違う、本音で喋れる場所です。あと、手打ちパスタ麺を作りたい、そばを打ちたい、鶏を捌きたい、バケツプリンを作りたいなど、家ではできないけどやってみたいことを、ここならたくさんできます。



どんな大人が居場所に居てほしい？

柔軟な人がいいです。「これはこうしないといけない」と決まった考えがある人はしんどいです。例えば、「学校へ行っていないなら、その分家で勉強しよう」と強要するとか、不登校だからといって気を遣うとかはされたくありません。



わたしは、こんな居場所がいい！

- 行きたい時にいけるように、いつもあいていてほしい
- やる気満々のスタッフばかりだったら、逆に冷めてしまう
- 時間も遊びもフリーがいい
- なんでもできる居場所がいい



自分の好きな ものを自分で 選ぶ喜びを知った

みさきさん（高校3年生）



みさきさんは小学生の頃から居場所を利用して、クラス替えのなかった小規模の小学校から一転、中学はマンモス校に進学。環境の変化から、自分らしさを見失い、他者との関係性構築をうまくできなくなりました。そんな時、救いになったのが居場所でした。

居場所との関わりは？

小学生の頃は毎月子ども食堂へ行き、ご飯を食べて勉強をしていました。中学に進学してからは、居場所を利用しながら、ボランティアとして小学生に勉強を教えていました。

なぜ中学校に馴染めなかったの？

敬語を使わないといけないと聞いて、思い詰め過ぎてしまいました。中学は複数の地区から集まってきて、ほとんどが知らない子。友達のつくり方もわからず、怖かったです。受験につながるからと、1年生の時に生徒会の学年代表に立候補。校則を守らせるために、知らない子にも注意をしたりすぐ先生にチクったりして、友達から敬遠されていました。

何が転機になった？

2年生の生徒会長選挙で落選したことです。私の何があかんのやうって。スタッフにたくさん話を聞いてもらいました。その中で、「なんで校則を守らなあかんの？」と問いかけてくれ、ハッとしましたね。そんな時、居場所の体験事業でラジオ番組をやることになり、パーソナリティをしないかと提案を受けました。

どんなラジオ番組だった？

中学生3名で、コミュニティラジオで週1回、3ヵ月配信しました。メンバーは校則を変えたいという共通の思いがありました。三つ編みやツーブロックはダメとされるけど、先生も理由をはっきり答えられないんです。

そこでテーマを「校則」にして、過去の生徒会長や市議会議員などをゲストに呼びました。生徒会や学校を動かし、翌年には三つ編みがOKになるなど、校則が変わりました。

ラジオで印象に残っていることは？

衣装を買ったことです。私はご近所からお下がりをもらうことが多く、新しい服を買ったことがほとんどありませんでした。スタッフが最初を選んでくれた服は納得がいなくて……。でもうまく伝えられなくて、泣いてしまいました。私の気持ちを汲み取って、一緒に買い物に行ってくれ、自分で服を買う楽しさを初めて知りました。自分で決めていいんだということが嬉しかったです。

居場所に来て変わったことは？

以前は生徒会がすべてでしたし、受験（内申点）のためにやらないといけないことだと考えていました。でも自分で考え決めていくラジオの活動を通して、生徒会活動がやりたいことになりました。3年生でも一度生徒会に立候補できたのも、スタッフが背中を押してくれたからです。

高校生になった今、居場所はどんな存在？

小学生の友達に会えるとても大切な場所です。スタッフはお父さん、お母さんみたいな感じです。でも、両親に言えないことも話せます。

将来の目標は？

スクールソーシャルワーカーを目指し、福祉系の学部に進む予定です。自分らしくいられる子どもが増えるように、子どものやりたいことを手伝える人になりたいです。

わたしは、こんな居場所がいい！

- みんなに平等に接してくれるといいな
- 自分らしさを見つけられる居場所がいい



自分のペースで 学習を進め、 全日制高校に合格

こうじさん（高校3年生）



こうじさんは、中学に進学してから学校へ行けなくなりました。毎日家で過ごしていた時、出会ったのが、「熊本学習支援センター」です。居場所で受験勉強に励み、見事志望校に合格。現在は楽しく高校生活を送っています。

居場所に行こうと思ったのはなぜ？

親が探してくれて、何回かセンターの人が家まで来てくれました。僕が目線に立って話を聞いてくれるし、趣味の将棋の話ができたのが楽しくて。良い人たちだと思ったので、居場所へ行ってみることにしました。初めて訪問してくれてから1ヵ月半くらい経っていました。スタッフが積極的に話しかけてくれて、過ごしやすいなと思いました。「無理して学校へ行かなくていいよ」と言ってくれたのも嬉しかったです。

居場所ではどんなことをして過ごしていた？

勉強をしていることが多かったです。センターには元教員のスタッフも居て、学習支援が中心です。たくさんの子供たちが主に勉強をして過ごしています。僕は高校受験に向けて、勉強に取り組むことにしました。学校の進度がわからないので大変でしたが、自分でスケジュールを決めて、自分のペースでできるのがよかったです。居場所へ行くようになってからも学校は休んでいましたが、受験に向けて定期テストだけは受けるようになりました。

勉強は順調に進んだ？

もともと勉強は好きでした。でも、休んでいた中学校の勉強を取り戻すのが大変でした。センターのスタッフや大学生はみんな優しいのでわからないところも質問しやすかったですし、教え方もうまかったのでがんばれました。おかげで希望していた、家から徒歩圏内にある全日制高校に合格しました。

一番の思い出は？

勉強の休憩時間には、学校も年齢も違う居場所の友達と話をしたりカードゲームや将棋をしをしたりしていました。日常の中で、たわいのない話をしたことが最も楽しく、今でも良い思い出です。

居場所の好きなところは？

色々な年代が居るので気が楽でした。年上にも話しかけやすい雰囲気でしたし、年下も居るから賑やかでしたね。勉強してもいいし、遊んでもいい、誰かとおしゃべりをしてもいい。自分のペースで過ごせるところがちょうど良くて、僕にはあって良かったです。

居場所を利用したことで変わったことはある？

周りを見ることができるようになりました。居場所には様々な人が居たので、「こんな人もいるんだな」と発見がありましたし、「こんなことをしてみたいな」とやりたいことも増えました。年下には、僕ができることをしてあげたいなと思いました。

将来の目標は？

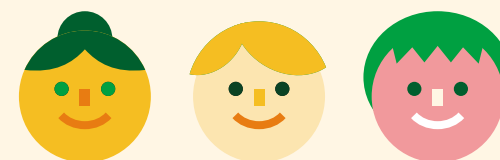
大人になったら教育の仕事をしたいと考えています。そのために、大学進学を見据えて、高校は進学校へ進みました。僕の経験が誰かの役に立ったら嬉しいです。そして、いつか居場所でも働きたいです。

わたしは、こんな居場所がいい！

- 電話でもいいからまずはゆっくり話を聞いてほしい
- 相談に乗ってほしい
- スタッフは相手の目線に立って聞ける人がいい
- 「学校に行こう」と言われたくない。「無理して行かなくてもいいよ」と言ってほしい



01 居場所スタッフから届いた子どもの変化



Staff's voices

VOICE 1

学校に行きたい気持ちはありつつも、一步を踏み出せずに不登校が続いていた男の子。高校受験を一つのきっかけにして、居場所で勉強をがんばり、学校の定期テストを受けるようになりました。見事私立高校に合格し、今は楽しく学校生活を送っています。



VOICE 2

家庭で厳しく育てられていたみさきさん。貧困家庭ではありませんが、服はご近所さんのお下がりが多く、新品を買ってもらったことがほとんどありませんでした。居場所の体験活動で衣装を買う機会があり、自分で初めて服を選ぶ経験をして、泣いていました。自分の好きなことや好きなものを好きと言えるようになり、今ではファッション好きとして友達にも知られています。



子どもの変化について

VOICE 3

居場所でたくさんの大人や異年齢の子とも出会うことで、子どもの価値観が広がっています。「○○をしなければならない」「○○であるべきだ」と思い、正解を求めがちな子どもたちが、居場所での活動を通して、学校の校則を変えたり、常識とされるものを疑ったりして自分たちで考えて行動できるよう変わってきています。



VOICE 4

生活保護世帯で、家ではご飯に醤油をかけて食べていた女の子。おなかを空かせて、公園で水道水を飲んでいるところを、保護されたこともあります。通い始めた当初は、食事の時に食べられる食材の方が少ないくらいで、野菜は全く食べられませんでした。今では、好き嫌いもかなり減り、野菜も食べられるようになってきています。小1から不登校だったため学習に遅れがありますが、少しずつ勉強の面白さを見出していて、居場所を卒業した後も、引き続き学習支援の教室を利用してくれています。成人するまでしっかり見守りたいです。



居場所について

VOICE 1



居場所を作らなければ、けんさんにも出会えませんでした。「居場所があって良かった」と話してくれますが、僕たちもけんさんに出会えて良かったと思っています。

VOICE 2



人を排除する空気がないところが居場所の良さであると、子どもが言ってくれました。僕たちが大切にしていることが伝わっていて嬉しかったです。

VOICE 3



どんなに親身に寄り添っても居場所スタッフは親の代わりになることができません。限られた時間でも親子で会話をたくさんしてもらうことも大切だと思います。

保護者からの声

VOICE 1

ひとり親でフルタイムで働いているので、19時まで利用できて助かりました。宿題を見てもらえますし、夕食も提供してもらえたので仕事を諦める必要がありませんでした。

VOICE 2

居場所のスタッフという安心して頼れる存在が居るから、精神的に追い詰められることなく、子育てができています。スタッフは親とも友達とも、ご近所さんとも違う、良き相談相手です。



02 その他の居場所スタッフから 届いた子どもの変化

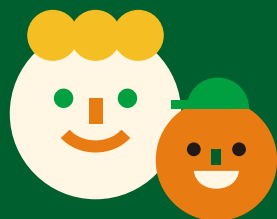
安心・回復

- 心が安らいたためか家庭の様子も少しずつ話してくるようになり、必要な支援につながった。
- 笑っていなかった子が笑えるようになった。
- 抑えこむことが当たり前ようになっていた自分の気持ちや意思を表現できるようになった。
- 普段一人でいることが多かった児童が、居場所利用をきっかけに友達関係が活発になり集団遊びに入れるようになった。



自信・意欲

- 無気力傾向にあった子が、音楽や芸術など、新しいことに興味を持ち、夢中になって趣味に没頭している。
- 多世代のボランティアさんと一緒に300近いお弁当を作り上げることへの達成感を感じ、少しずつだが自分のしたいことを見つけ、学校にも行けるようになった。



Staff's voices

生活習慣・コミュニケーション

- 引きこもり状態だった子がバンドを組み、地域イベントで発表。高校進学もした。
- 自信の無さからか、比較的きつい言葉を使っていた子が、相手の気持ちを尊重した優しい言葉遣いができるようになった。
- 自己否定が多かった子が、自分の得意分野を見つけ元気にいきいきとしている。
- 食習慣に変化がみられた。好き嫌いはあるものの、新しいものに挑戦する姿勢がみられるようになった。食事量が増えた。体重が増えた。



学習支援

- 宿題に取りかかるのが苦手だったが、みんなと一緒に過ごすことで自然と宿題に取り組むことができるようになった。
- 不登校だった子どもが、週1のチャレンジ登校をできるようになった。
- 夢や目標などはなかった子が、行きたい高校を見つけた。



03 \ PICK UP! / すてきな取り組みを紹介します

PICK UP 1

子どもの自己肯定感を育む「もちあじの海」

内容

居場所に来ている人（子ども、スタッフ）の良いところ、がんばっていることなど（もちあじ）を書いて、壁に貼る取り組みです。海の生き物の形をしたカードに記入することで、貼ることに楽しむ要素を持たせます。強制したり、書く時間をもうけたりせず、思いついた時にいつでも記入できるようにして子どもの意思で書いてもらうことが大切です。記入例「○○ちゃんはブロックおもちゃが得意!」「○○くんは掃除をがんばっている」



子どもの変化

- 自己肯定感：人に認められる経験、自分の良いところに気づく。
- 自主性：人の良いところを探す、発信する、人のために進んで行動する。
- コミュニケーション力：相手を尊重できる。



展開

- 海ではなく、木にりんごをつける「成長の木」等、好きなデザインにアレンジできる。
- カードがたまったら台紙に貼って家に持ち帰り、保護者と共有することで、保護者が子どもの良い点を発見したり褒めたりするきっかけになる。

PICK UP 2

子どもの主体性を育む「居場所ルールづくり」

内容

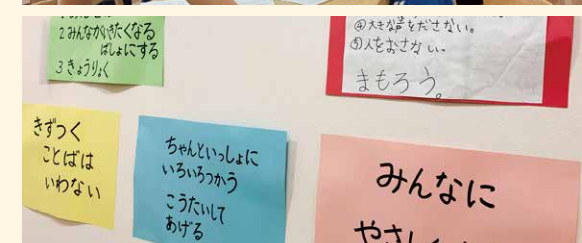
子ども会議を開き、居場所での約束事を子どもたちで決めます。子ども会議中は大人は極力関わらず、司会進行もすべて子どもたちで行います。話し合った結果を子どもたちの意見としてスタッフに伝え、スタッフ側の意見を伝えた上で最終的な結論を出します。（指導するような結論ではなく、大人は子どもの意見を聞いてくれて話し合いにも応じるという姿勢。この先何かあった時も「大人に相談する」という選択肢を持ててもらうことが大切です）決定したルールは、紙に書いて見るところに貼り出し、子どもたち自身で守っていけるようにします。

子どもの変化

- 主体性：自分の気持ちや考えを言える。諦めずに、やり抜く力がつく。
- 社会性：何かあっても話し合えば解決できるという意識が芽生える。みんなで協力することの達成感を得られる。
- コミュニケーション力：人や社会と関わる力が身につく。
- 安心感：自分の居場所として感じることができる。

展開

- 居場所のルールブックを作る。
- 新しく入ってきた子どもに、子どもがルールを教える。



04 子どもの声を聞くために

子どもが「居たい・行きたい」と思っている居場所は、大人の考えだけで居場所づくりを進めたり、大人の価値観を押し付けたりするとうまくいかないことがあります。それぞれの子どもは、その子なりの価値観や想いを抱いています。子どもの声を受け止める環境を用意し、子どもと大人の双方の理解を深めて「対話」していくことで、安心できる居場所に近づけていくことができます。子どもの声を聞くヒントを紹介します。



1 子どもが声をあげやすい環境をつくる

子どもの声を聞くために、まずは子どもが安心して声をあげられる環境をつくるのが大切です。いくら大人が子どもの声を聞こうとしても、信頼していない大人には本音を話さないでしょう。そのため、日頃から子どもとの信頼関係を築くコミュニケーションが重要になってきます。信頼関係が築けると、掃除や食事づくりの時など、

何気ない日常的な活動の中で、話してくれるようになります。また、子どもが話しやすいようにサポートすることも大切です。特に小学校低学年は、言語表現能力が十分に発達していないので、非言語コミュニケーション（身体表現）を含めて理解していく姿勢が求められます。

受容

子どもの言うことについて、うんうんと聞いて受け入れる



相互理解

それはいつ？だれ？と5W1Hを聞いてお互いに理解していく

子どもの発言は、いつ、だれを省略していることが多い



言葉にすることが難しい時は、「“嬉しさ”はどのくらい？」と手を広げて、体で表現してもらおうといい

共感

どんな気持ちだったの？それはかなしかったのね？会話しながら気持ちを汲み取る

その時の気持ちを子どもは言葉にできないことがある



話していく中で、子どもも自分の気持ちに気づく

背景

なぜそうしたのか、その背景を聞いていくと、子どもの考えていることがわかる



子どもが話すのは氷山の一角、聞き流さずにじっくりと対話しよう

2 普段から子どもが自分の考えを認識し、表現することを認める

突然、意見を求められても、多くの子どもは考えたり表現したりすることができません。お菓子が食べたい、学校に行きたくない、公園で遊びたい……日々生活する中で、心の中にはいろんな思いが湧き上がってきます。それを自分の中で認めずに、「こういう決まりだから」と抑えこんでいたら、だんだん考えることをやめてしまうでしょう。大人に伝えても無視されてしまったら、「どうせ言っても無駄なんだ」と考えることを諦めてしまうかもしれません。「自分の意見を言っているのだ」ということを子どもに伝え、大人が子どもの言葉を受け止めることが大切です。

4 子どもの声を否定したりないがしろにしたりしない

せっかく子どもが自分の考えや気持ちを言葉にしても、それを否定したりないがしろにしたりしては、子どもはがっかりしてしまうでしょう。話した内容が悩みや言いにくいことだったとしたら、子どもは大きなショックを受けるかもしれません。もしそれが何回も続いたら、子どもは大人を信用しなくなり、話すことをやめてしまいます。もし子どもの話に指摘したくなった時は、「そう考えているんだね」と一度受け止めて、その上で大人の考えを押し付けるのではなく「こういう考えもあるよ」と一つの案として提示するといでしょう。

3 子どもに、話すことを強制しない

子どもの声を聞くことは大切ですが、子ども自身が話したくないと思った時は、話す必要はありません。話したくない時に「なんでも聞くから、遠慮なく話してね」と言われるのはプレッシャーになります。もしかしたら時間が経てば話したくなるかもしれないし、別の場を改めて設定する必要があるかもしれません。「話したくない」というのも、子どもの声（意思表現）の一つです。



子どもの声が聞けていないかも？

そんな時に振り返りたい、

3つの確認点

【目的優先】

勉強だから座っていてほしい。このテーマについて聞きたい

【思い込み】

この子はこう思っているに違いない

【自己の投影】

自分の経験から考えると、こうに違いない

POINT!

子ども・若者サポート宣言

日本財団子ども支援チームは、すべての子ども・若者が、その存在と尊厳を大切にされ、
安心できる環境の中で、自ら未来を切り拓く力を育める社会を目指します。
そのために、以下の視点を大切に、関係機関と協力しながら事業に取り組みます。

① 子どもの権利の尊重

私たちは事業活動において、子どもの権利条約およびこども基本法 の精神にのっとり、
子ども・若者を一人の人として尊重します。

② エンパワメントの促進

事業活動を通じて必要な支援や機会を提供することで、
子ども・若者が自分自身の持っている力を発揮し、自らの可能性を広げられるようサポートします。

③ 安心安全な事業・組織づくり（セーフガーディングの推進）

私たちの事業・広報活動および組織運営が子ども・若者に与える影響を考慮し、
子ども・若者にとって安心安全なものになるよう、チームの責任として取り組みます。



日本財団とは

ポートレースの売り上げの一部や企業・個人からの寄付金を財源として、社会福祉・教育・文化、船舶・海洋、海外協力援助などの事業を支援する公益財団法人です。市民、企業、NPO、政府、国際機関、世界中のあらゆるネットワークに働きかけ、知識・経験・人材をつなぎ、一人ひとりが自分にできることで社会を変える、ソーシャルイノベーションの輪を広げていくことを目的としています。

日本財団 公益事業部 子ども支援チーム

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 E-mail : c3p@ps.nippon-foundation.or.jp

URL : <https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place>